



大阪がもたない! 府議会本会議で熱弁

あさくらひでみ

朝倉秀実 府議会議員

生野区選出、朝倉秀実府議会議員は昨年12月府議会本会議において質問に立ち、悲惨な交通事故を防ぐための新しい交通安全教育の推進と、大阪府警察官、教員、府職員の処遇改善について取り上げ、危機感を込めて熱弁を揮いました。



〈朝倉 秀実 あさくら ひでみ〉

舍利寺小、生野中、桃山学院高、神戸大法学部卒。生野区青少年指導員。住友電気工業秘書課長。大阪府議会議員5期。自民党府議団幹事長、第105代大阪府議会議長。現在、府議会教育常任委員、自民党大阪府連 組織委員長。ホームページ/ Facebookは「朝倉秀実」で検索。

現場は
危機的

優秀な警察官、教員、府職員を確保せよ

大阪府では、警察官3万人、教員6万人、府職員1万人の給与削減を続けており、ひたひた発生数日本一など全国でも最もたいへんな任務に就く大阪府警察官の給与も全国最低という、異常な状態が続いています。

大阪の小、中、高校の教員も同様であり、最低の給与と厳しい仕事内容により、大阪で先生をやりたいという若い人たちが少なくなってきました。

朝倉議員が調査した結果、必要な教員数が確保できず、自習が続いているという学校も少なくないことが明らかになりました。さらに民間人校長の大量採用などによって教頭先生になろうという先生も激減し、このままでは学校が成り立たなくなるのではないかと心配されます。

松井知事は新たに240億円を使って全中学校の給食を行うとしていますが、立派な給食があっても、逆に立派な先生がいない、授業は自習続きというのでは本末転倒と言えます。

将来世代にツケを残さないことは大事ですが、そのツケは帳簿上の赤字だけでありません。例えば、橋や道路などの予算を削って、今やるべき維持、補修を行わなければ、将来、

却って大きな費用が必要となります。このことも将来へのツケであり、警察官や教員、職員についても優秀な人材が確保できなくなれば、将来、大阪にとって大きなマイナスとなることは明らかです。

民間企業が厳しい中で、長年、公務員にも給与削減の協力を求めてきましたが、このままでは優秀な警察官、教員、職員が確保できなくなるおそれがあり、街の治安、子どもたちの教育、福祉、医療などの施策に支障が出るのが心配され、将来の大阪府民に大きなツケを残すことになる朝倉議員は指摘しています。

現場は危機的な状態にある、府民のために、警察官、教員、職員の処遇を見直すべき時ではないかと、朝倉議員は質しました。

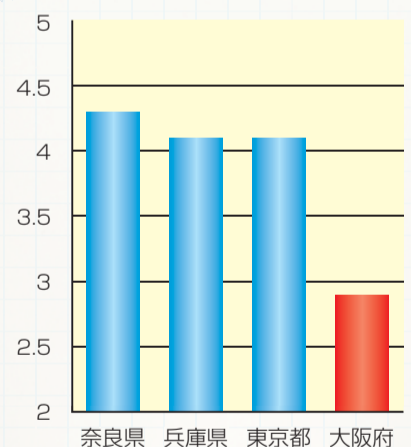
その責任を担う小西副知事が答弁に立ち、公務員の給与は民間と比較して決定されなければならないが、その決定された給与が削減され、他府県と比べて大阪だけが低いという状態が続くことは好ましくない、警察官や教員、職員採用にすでに影響が出ている、これからも優秀な人材が大阪に集まるよう、それぞれの処遇を見直すべきであると考えたと答弁しました。

安全安心、子どもたちが豊かに育つ大阪をと、朝倉議員は訴えています。

CHECK

小学校教員の応募倍率

(平成25年度)



CHECK

大阪府下小中学校の実態

(ヒアリングから抜粋)

- A市 担当する教員が不足している
- A市 それを補う講師も確保できない
- B市 一人の先生が二つのクラスを見ている
- C市 教科外の先生が教えている
- D市 教頭が教えている
- E市 専門の先生がいないため理科の実験ができない
- F市 プリントや教科書の書き写し等の自習でしのいでいる